


# 彦春町蕎麦



café

本絵原萩

よるに限るの手この



萩原絵本

「この手に限るよ」

絵・訳：茜町春彦

原作：萩原朔太郎

A Picture Book

Title : "There is nothing like this way"

Illustrated and translated by : Akanemachi Haruhiko

Original author : Hagiwara Sakutaro



After an awakening, I consider it to be very foolish and meaningless.

But in the dream, I think it to be an important truth or a dignified discovery.

目が醒めてから考えれば、実に馬鹿馬鹿しくつまらぬことが、夢の中では勿体らしく、さも重大の真理や発見のように思われるのである。



In a dream, I have once visited a neat and tidy cafe in my town together with my friends.

私はかつて夢の中で、数人の友だちと一緒に、町の或る小綺麗な喫茶店に入った。



One of the waitresses was a pretty and intelligent-looking young woman.

その給仕女に一人の惻発そうな顔をした、たいそう愛くるしい少女が居た。





Everyone fretted about having an intimate relationship with the Maedchen somehow.

And they wanted to win her heart.

どうにかして、皆はそのメツチェンと懇意になり、自分に手なづけようと焦燥した。



Then, a beautiful idea struck me.

Before the maiden, I took a lump of sugar out of the pot.

そこで私が、一つのすばらしいことを思いついた。

少女の見ている前で、私は角砂糖の一つを壺から出した。



Then, I fully composed myself.

Calmly and dignifiedly, I dropped it in my teacup with a meaningful movement of my hand.

それから十分に落ち着いて、さも勿体らしく、意味ありげの手付をして、それを紅茶の中へそっと落とした。





The sugar was dissolving in the hot tea rapidly.

And soon, small and fine bubbles rose to the surface in the cup and gathered on its circumferential edge.

熱い煮えたった紅茶の中で、見る見る砂糖は解けて行った。

そして小さな細かい気泡が、茶碗の表面に浮かび上がり、やがて周囲の辺に寄り集った。



Then, I took another lump out of the pot again.

And calmly and dignifiedly, I dropped it in the teacup with an affected movement of my hand as well as the previous time.

(At that time, I was sensibly proud that my skillful performance was more suitable for the sophisticated smart behavior than the performance of a dandy in Paris.)

その時私はまた一つの角砂糖を壺から出した。

そして前と同じように、気取った勿体らしい手付をしながら、そっと茶碗へ落とし込んだ。

(その時私は、いかに自分の手際が鮮やかで、巴里の伊達者がやる以上に、スマートで上品な挙動に適ったかを、自分で意識して得意でいた。)





Again, bubbles rose from the bottom of the teacup.

Dancing together around the center for a while, they separated quickly.

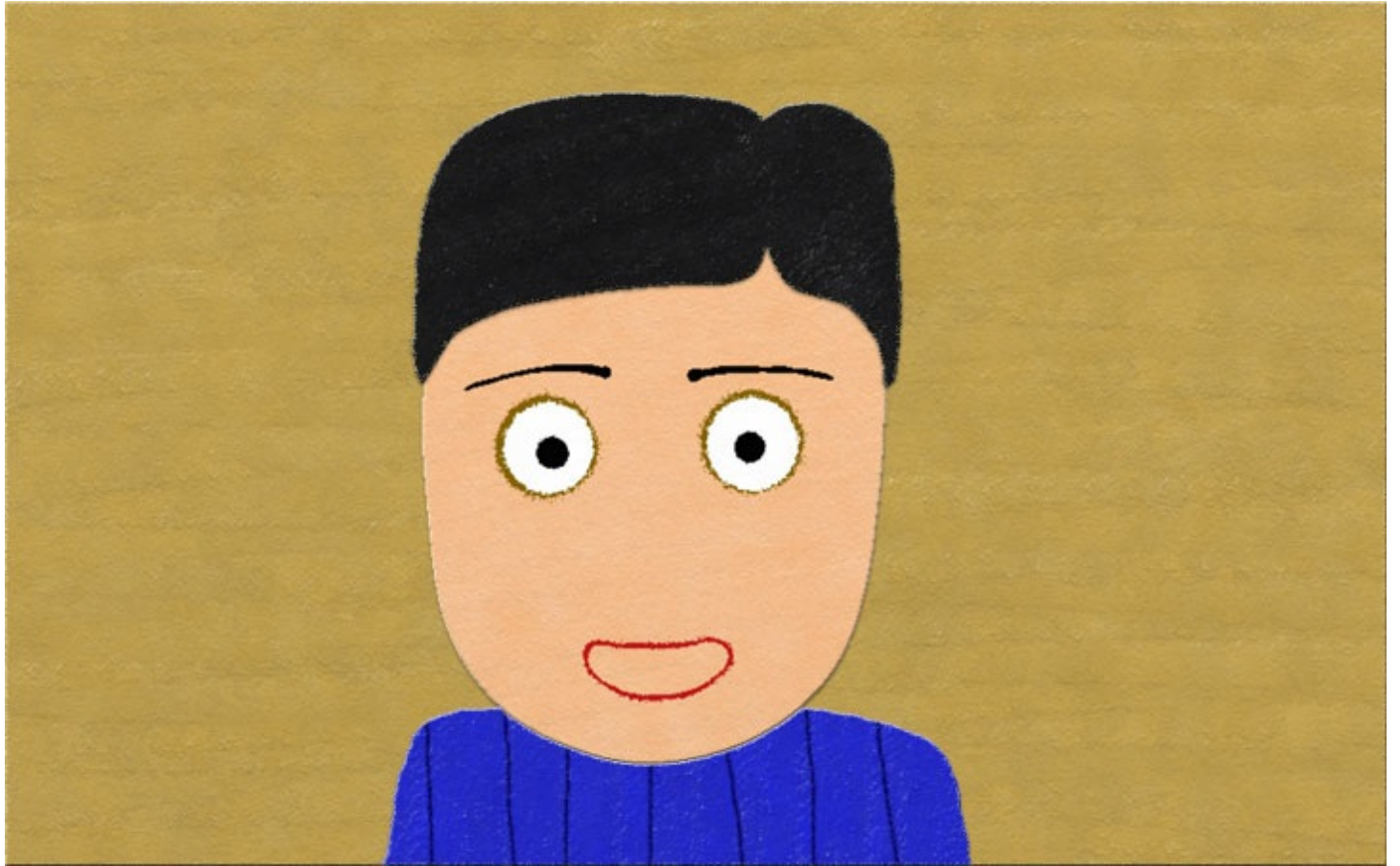
And they stuck onto the edge of the teacup.

They looked as if a practiced mass game was performed on command.

茶碗の底から、再度また気泡が浮び上がった。

そして暫く、真中にかたまり合って踊りながら、さっと別れて茶碗の辺に吸いついて行った。

それは丁度、よく訓練された団体遊戯が、号令によって、行動するように見えた。



"Hey, marvelous!" I said.

「どうだ、すばらしいだろう！」と私が言った。





"Dear, beautiful!" exclaimed the young woman, who was gazing at that.

"This is a true art! Dear, beautiful! May I ask your name?"

And, she stared at my face and blinked with her long eyelashes respectfully and lovingly.

She requested me to visit again.

Also, she said that she wanted to see me frequently and to chat about various things.

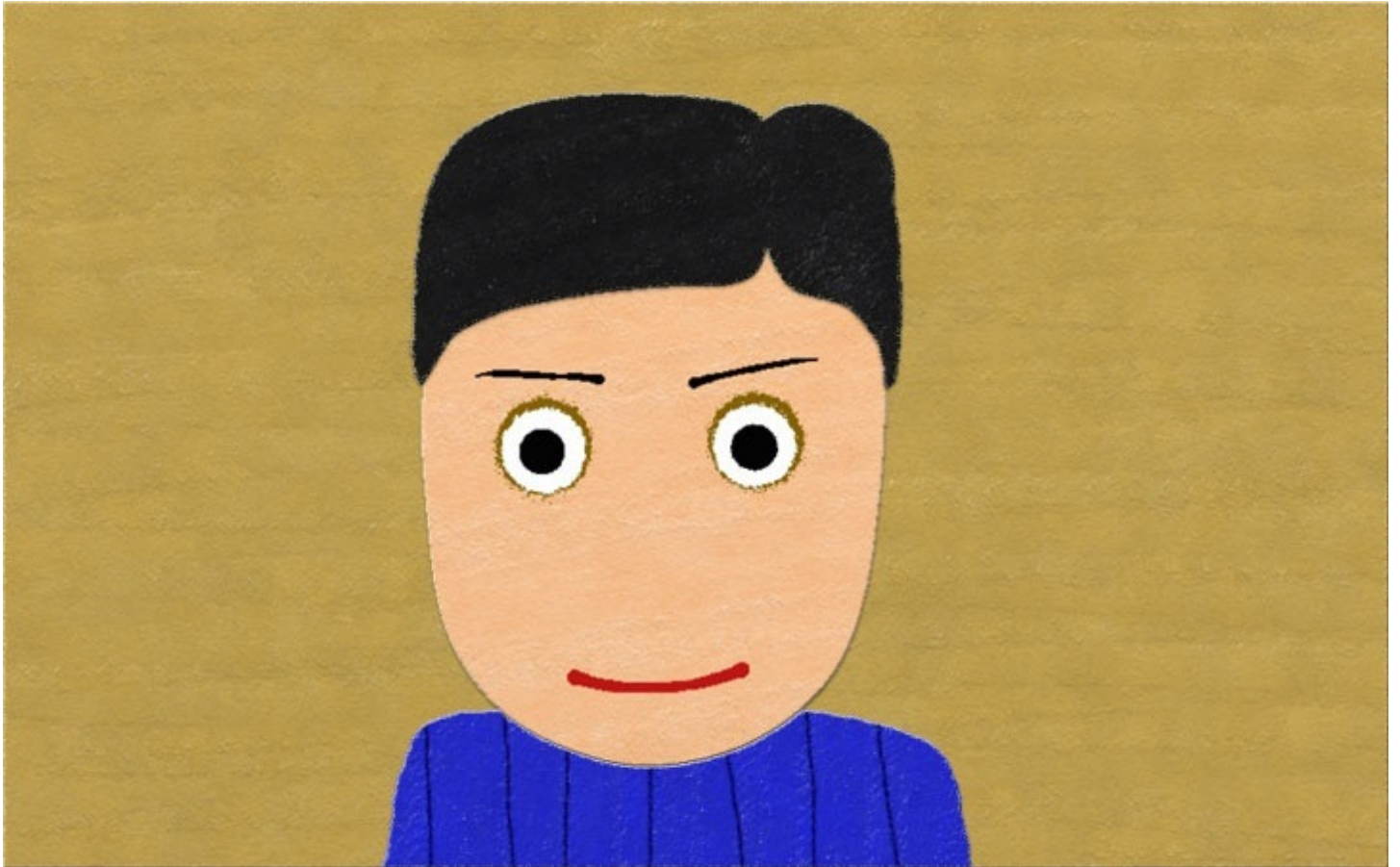
「まあ、素敵ね！」と、じっと見て居たその少女が、感嘆おく能わざる調子で言った。

「これ、本当の芸術だわ。まあ素敵ね。貴方。何て名前の方なの？」

そして私の顔を見詰め、絶対無上の尊敬と愛慕をこめて、その長い睫毛をしばだたいた。

是非また来てくれと懇望した。

私にしばしば逢って、いろいろ話が聞きたいからとも言った。



I was filled with a great feeling of joy.

And I admired myself for my idea.

I wondered why I hadn't thought out this nice thing earlier.

If I do only this thing for any woman, I will be able to win her heart easily.

Nothing was prouder than what I originally thought out such a great invention which nobody had known previously.

私はすっかり得意になった。

そして我ながら自分の思い付に感心した。

こんなすばらしいことを、何故もっと早く考えつかなかっただろうと不思議に思った。

これさえやれば、どんな女でも造作なく、自分の自由に手なづけることができるのである。



かつて何人も知らなかった、これ程の大発明を、自分が独創で考えたということほど、得意を感じさせることはなかった。



And I looked back to my stupefied friends and said proudly in ecstasy.

"If you want to win a girl's heart, there is nothing like this way. LIKE THIS WAY."

そこで私は、茫然としている友人等の方をふり返って、さも誇らしく、大得意になって言った。

「女の子を手なづけるにはね、君。この手に限るんだよ。この手にね。」





Then, I woke out of sleep.

そこで夢から醒めた。



And I burst out laughing at my foolishness because it was too funny.

However, my phrase "There is nothing like this way" has remained in my ears.

And I have never forgotten it.

そして自分のやったことの馬鹿馬鹿しさを、あまりの可笑しさに吹き出してしまった。

だが「この手に限るよ。」と言った自分の言葉が、いつ迄も耳に残って忘れなかった。



"There is nothing like this way."

Sometimes, I hear this phrase of the dream.

Such a time, I laugh my head off.

And, I think about the true character of a "fool" who lives somewhere inside of myself.

「この手に限るよ。」

その夢の中の私の言葉が、今でも時時間こえる時、私は可笑しさに転がりながら、自分の中の何所に住んでる、或る「馬鹿者」の正体を考えるのである。

(了)



## 後書き

---

改訂について：

英訳文を修正しました。

参考文献：

次の文献を参考にしました。

- 猫町 他十七篇：2014年7月15日第20刷発行 萩原朔太郎作 清岡卓行編 岩波文庫
- 新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷：1975年9月15日第1刷発行 株式会社三省堂
- ジーニアス英和辞典 第5版：2014年12月25日第1刷発行 株式会社大修館書店
- 総合英語Forest(7th Edition)：2014年2月20日第7版第4刷発行 石黒昭博監修 株式会社桐原書店
- Longman Dictionary of Contemporary English: Sixth edition 2014 Pearson Education Limited
- Longman Thesaurus of American English: First published 2013 Pearson Education Limited
- Longman Study Dictionary of American English: Second edition 2011 Pearson Education Limited

C G画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

- ArtRage 3 Studio Pro アンビエント社
- Photoshop Elements 10 アドビシステムズ株式会社

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。独自のアイデア・考察を社会に提示することをミッションとし、平等で自由な世界の構築を目指して創作活動を行なっております。また、下記WEBサイトに於いても、デジタル作品を公開しております。

- YouTube （動画共有サイト）
- Google+ （ソーシャルネットワークサービス）
- 楽天Kobo電子書籍ストア （ネットショッピングサイト）
- はてなブログ （WEBLOGサービス）
- Facebook ページ （ソーシャルネットワークサービス）
- Pixiv （イラスト投稿サイト）
- カクヨム （小説投稿サイト）

- BOOTH （物販サイト）
- エブリスタ （小説投稿サイト）

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2015年4月2日発行

2018年10月2日改訂

萩原絵本「この手に限るよ」

<http://p.booklog.jp/book/96916>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/96916>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/96916>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ